

Tobu通信

鳥取県教育委員会事務局
 東部教育局
 〒680-0061鳥取市立川町六丁目176番地
 東教発 R4.9.1 No.174
<https://www.pref.tottori.lg.jp/t-kyoiku/>

変化の速度が激しい教育現場の困難さを共有しながら

局長 徳高 雄一郎

毎日のように「ロシアによるウクライナ侵攻」や「核兵器の脅威」のニュースが流れる中、戦争・平和について考えさせられる日々が続いています。そのような中で迎えた、令和4年8月6日と9日、77年目の原爆の日。この日をこれほど自分事として受け止めた年はありませんでした。私が中学校勤務時代、広島や長崎、沖縄への修学旅行等で戦争・平和について一緒に学んできた生徒たちは、この原爆の日を、今一体どう受け止めているのだろうか？と考えずにはいられません。「平和の誓い」の中に「過去に起こったことは変えることができません。しかし未来は創ることができます。(中略) 今度は私たちの番です。」という小学6年生の言葉がありました。今現在、私は何もできていませんが、私自身、平和への思いや関心はより強くなったと感じています。平和学習も以前に増して、より自分事として各学校現場で扱われていることかと思えます。

令和の時代となり、教育現場における変化が一気に加速していることを感じます。平和学習の在り方だけでなく、働き方改革・GIGAスクール構想の動きも、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の中で速度感を増しました。前例踏襲はないと言ってもいいぐらい日々目まぐるしく変化して進む難しい時代に、学校現場は突入しています。

各学校が、それぞれの教育課題に対して誠実に向き合い、校長が示す明確な方向性のもと、教職員が協働して取り組んでいくことがより重要となっています。

9月以降も東部教育局は各市町や各学校の実態に応じて、変化の速度が激しい教育現場の困難さを共有しながら引き続き支援させていただきます。

2学期スタート、前期まとめの時期に 再確認を

夏季休業明けのこの時期は、生活リズムを整え、学校生活の様々な決まりごとを再確認し、実りの秋を充実して過ごす土台を整える時期です。子どもたちが、「もっと知りたい、勉強したい。」と主体的に学習活動に向かえるような土台づくりをしていきましょう。

< 土台を整えるために ~5つのポイント~ >

早寝・早起き・朝ごはん 規則正しい生活リズム

朝から疲れた表情をしていないか、登校しぶりの兆候はないかなど、しっかり観察しよう。

TPOに合わせた言葉遣い

まずは、教員がよいモデルになっているか確認しよう。

安心につながる 家庭との連携

学校生活を安全で快適に過ごせる服装を、子ども、家庭と確認しよう。

よいことも課題も積極的に家庭に伝え、教育活動を理解していただく。

忘れ物、課題や提出物の遅れが目立つ場合は、その要因を確認しよう。

メディアのルールを再確認しよう。

意欲につながる家庭学習

一人一人に合った学習内容になっているか確認しよう。

今日の授業と明日の授業をつなぐ学びの機会にしよう。

めざす子ども像に迫る 校内研究の充実

めざす姿を全職員で確認しよう。

一人一人に必要な支援を検討しよう。



教育活動を円滑に推進していくには、職員集団の輪が重要であることは言うまでもありませんが、主役である子どもたち一人一人が学習活動に主体的に向かえるように、全職員で土台を整え、支援していくことが重要になります。

新型コロナウイルス感染症の感染防止対策の再確認が、「学びを止めない」教育活動につながります。



幼保小の連携・接続

育ちと学びをつなぐ



夏季休業中に、各校区の小学校や義務教育学校職員と園との合同研修会等が行われました。お互いの教育・保育の理解、子どもの育ちと学びのつながりについて協議されました。コロナ禍の中で、「できない」ではなく「できる」形を工夫して実施された取組を紹介します。

青谷小・すくすく保育園



年長児の遊び「おばけ作りをしよう」の様子を小学校の職員9名が参観。その後研修会。

鹿野学園・こじか園



学園の先生方が年長・年中クラスに分かれての保育体験、その後の合同研修会。

鳥大附属学校部



幼保小接続推進リーダーが中心となって計画を立て、研修会を実施。(鳥大附属・面影)

園と小学校、各教室をオンラインでつないでの協議。

面影小学校区



どの研修も「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や「育みたい資質・能力」をもとに、子どもの姿を見取り、思いを共有したり小学校等へのつながりについて話し合ったりしました。



小学校等においては、学びをゼロからのスタートにするのではなく、園で育まれた資質・能力を生かし、伸ばしていくことが大切です。

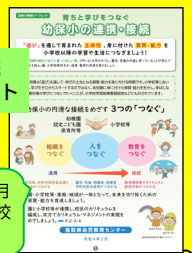
参加した職員の感想

- ・子どもの交流会だけでなく、このような職員の合同研修も継続していきたい。
- ・園で積み重ねた取組が小学校において、どのように生かせるのか協議することができた。

参考

幼保小接続リーフレット

令和4年2月各園・小学校等に配布。



今年3月、文部科学省より「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き(初版)」が示されました。子どもの育ちと学びをつなぐために、まずは園と小学校が子どもの育ちを中心に据えて、お互いの教育・保育について話し合う場をもつことから始めましょう。手引きの動画もぜひご覧ください。(動画QRコード)



生徒指導コーナー



児童生徒への適切な支援のために

「スクールカウンセラーの資質向上を図ること」を目的に、第1回スクールカウンセラー研修会を開催しました。スクールカウンセラーが児童生徒、保護者等との相談活動を行うにあたり、鳥取市が運営しているサポートルーム「すなはま」の取組を通して、登校しぶりのある児童生徒への対応等について学びました。研修会当日は、サポートルーム「すなはま」についての説明、施設見学の後、グループに分かれて情報交換を行いました。児童生徒への適切な支援方法や、参加者の実践を知ることができる有意義な時間となりました。

<参加者の振り返りより>

- ・サポートルーム「すなはま」の運営と支援体制についての説明を受け、きめ細やかな支援の大切さを学ぶことができました。
- ・不登校児童生徒数の変遷やサポートルーム「すなはま」について知ることができました。今後、養育に困難を抱えた家庭がますます増えていくものと考えます。アセスメントと親切で丁寧な対応や連携を心掛けたいです。
- ・不登校傾向の児童生徒の状況や背景、支援ニーズ等は多様化していると感じています。児童生徒の状況に応じた支援について、先生方と一緒に検討していく必要があると感じました。

◆サポートルーム「すなはま」について、詳しくはホームページを御覧ください。➡



児童生徒の対応で困ったときは、一人で抱え込まず、同僚やスクールカウンセラー等に相談して、適切な対応を!



子どもたちを取り巻く環境は多様化・複雑化してきており、年々、不登校や問題行動等も増加傾向にあります。心の専門家であるスクールカウンセラーとともに様々な情報を整理統合し、アセスメントやプランニングを行った上で、「チーム学校」として、課題を抱える子どもたちの相談活動や支援を行うことが重要です。スクールカウンセラー等との連携を一層深め、教育相談体制の充実を図っていきましょう。